

土偶讃

宮坂 静生



ぽくぽくともぐらの土も年はじめ

福藁にすがり 偽瓢虫てんとうむしだまし

草灰を踏めばみな蝶井戸尻遺跡いどじりは

草の絮飛ばす日溜り尖石遺跡とがりいし

山人がしばしかかるも狼落しいぬおとし

朔風がなめす土坑どこうの底に土偶

永劫に眠る土偶に御慶かな

雪が来る暮しのけじめつけにくる

炉を囲み柱七本家族めき

あたたかや半人半蛙はんじんはんあ土器の貌

みづち文大深鉢や春の月

樵こり初石斧はじめに神酒を吹きにけり

仏壇も炬燵も一間花骨牌

